

モニタリング等に関する論点

□モニタリングについて

① モニタリングの必要性

(これまでの意見)

- ・ 大規模調査はとりまとめに時間がかかるため、その結果を待つばかりではなく、モニタリングを行って最新の動向を把握できるように努力することが必要。ただし、最新の動向に過度に反応すると長期的には大きな振幅となるので注意が必要
- ・ 予測期間中の諸条件の変化に柔軟に対応するためのモニタリングシステムの整備が重要
- ・ 道路計画の妥当性の検証、各種インパクトの適切な評価、質的变化に関する情報の収集と解析プロセスを構築し、将来的に生じる各種変化への対応が可能な体制・体系を整えるべき

② モニタリングの内容

(これまでの意見)

- ・ 予測値と実績値の乖離をモニタリングする必要
- ・ 量的変化のみならず、交通量増減の原因となっている質的变化(女性や高齢者による自動車利用の増加、軽自動車の増加とそれに伴う利用パターンの変化、大都市圏以外での自動車の生活必需品化の進展など)を把握することが必要
- ・ 道路交通センサスの中間年を埋める新たなデータ取得が必要
- ・ 多様な道路空間の役割に配慮すべきであり、バイク、自転車、歩行者等についても傾向を把握する必要
- ・ 生産拠点の海外移転や北米市場からアジア市場への方向転換などにより、貨物の流れに変化が生じると予想されるため、今後の動向をフォローしていくことが必要。

③ モニタリング結果の交通需要推計への反映

(これまでの意見)

- ・ 概ね5年ごとに最新データを収集し、モデルを再推定し、予測値を更新していく仕組みを導入すべき

④ その他

(これまでの意見)

- ・ 道路交通センサスの抜本的な見直し、プローブデータ・路側交通量データ等の積極的な活用、他の大規模交通調査との連携などが必要
- ・ 統計的な観点からも信頼性の高いデータを整備すべき

□パブリックコメントの内容について

□今後の道路政策の方向性について

(これまでの意見)

- ・ 道路交通の質的变化やモニタリング結果の道路政策・計画への反映についても考慮が必要
- ・ 都市内道路では、自転車走行空間の確保や歩行者専用地区の面的指定など、地区の特性に応じた道路空間再配分をもっと展開していくべき